

## ロシア、ウクライナ、予告された戦争の記録

クリス・ヘッジス（ピューリッツァー賞ジャーナリスト）著、脇浜義明訳

原典：MintPress News, 2022年2月25日

1989年、私は東欧でソ連邦崩壊を招いた硬直した共産党独裁を倒していった革命を報道していた。ある意味では希望の年であった。ソ連帝国の崩壊とともに NATO もなくなると思った。ミハイル・ゴルバチョフ大統領はロシアを含む新しい安全保障体制を構築しようと米欧に働きかけた。米国のジェームズ・ベイカー国務長官と西独のハンス＝ディートリッヒ・ゲンシャー外務大臣は、ドイツが統一したら NATO はドイツより東へ拡大させないと、ゴルバチョフに約束した。英も仏も同意したので、新世界秩序の到来を思わせた。平和の配当 — 軍事費のために抑え続けられていた社会福祉や市民的インフラにカネが回るという希望を抱いた。

当時の外交官や政治的指導者の間には、NATO 拡大は愚かで、折角の冷戦終結でロシアとの間で成立した平和的な関係を破壊することになるという一般的認識があった。

私たちはあまりにも幼稚だった。産軍複合体は冷戦終結による利益減少に甘んじる気はなかったのだ。すぐに元共産圏諸国を EU と NATO に入れる政治を始めた。今ではポーランド、ハンガリー、チェコ共和国、ブルガリア、エストニア、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、アルバニア、クロアチア、モンテネグロ、北マケドニアが NATO 加盟国となって、高額な借金をして NATO に適合する戦闘用機器を購入している。

平和の配当は幻想だった。冷戦終結で稼ぎ口を失った兵器産業は NATO 拡大に道を見出したのだ。（例えば、最近ポーランドは M1 エイブラムス戦車やその他の武器を米国から購入するために60億ドルを使った）ロシア国境から100マイルの地点のポーランド国内に NATO ミサイル基地も建設された。これがロシアを追い詰め、とうとうレッドラインとも言えるウクライナに迫った。よく地政学的戦略の話がされるが、そこにあるのは単に金儲け戦略だけである。ひっきょう、戦争はカネになるビジネスなのだ。だから、勝利なき泥沼という認識があったにもかかわらず、米国は20年間もアフガン戦争を続けたのだ。



**Firefighters hose down a burning building following a rocket attack on Kiev, Ukraine, Feb. 25, 2022. Photo | AP**

2008年2月1日にウィキリークスがリークした極秘外交電信がある。ロシア政府が米統合参謀本部、NATO-EU 共同体、米国家安全保障会議、米国防総省、米務務省宛に送った外交電信で、NATO の東進、特にウクライナの NATO 編入は必ずロシアとの戦争になると明白に述べたものだった。「ロシアは NATO による封じ込めと地域におけるロシアの影響力を破壊する行為はロシアに対する挑戦、ロシアの安全を脅かすものとする。このため予測し難い結果が生じる恐れもある」と電文は述べていた。

当時専門家たちは、ウクライナが NATO に加盟すれば、ウクライナ内の親露派とウクライナ政府との対立が深まり、内戦に発展し、それがロシアの介入を招くかもしれないと、心配した。米国のカーネギー・モスクワ・センターのドミトリー・トレーニン所長は、ウクライナが米露関係を不安定にする最大要因で、NATO 加盟でウクライナの国内政治が分裂・紛争となれば、ロシアの介入となる恐れがある。ロシア政権内にはウクライナ侵攻をけしかける分子が存在し、米国もウクライナのロシア抵抗勢力を煽るので、両国はますます対立パターンに追い込まれている。

オバマ政権はロシアとの無用な緊張を避けようと、ウクライナへの武器販売を禁止したが、トランプとバイデンはそれを復活させた。ロシアの抗議にもかかわらず米英からの武器はずっとウクライナに流れ込んでいる。一部は軍事援助という形で15億ドル相当の兵器で、その中には小銃やジャベリ対戦車用誘導ミサイルがある<sup>1</sup>。

米国もNATOもウクライナに武器を送るだけで派兵する気はない。これは2008年のロシアとジョージア（グルジア）の紛争のときもそうであった。ウクライナ戦争はマルケス・ガブリエルの小説『予告された殺人の記録』に反映されている。小説の語り手は「殺人がよくされていたにもかかわらず、誰もそれを止めることが出来ず、止める意志もなかった」と語っている。1989年に東欧から報道していた記者はみんなロシアを追い詰めればどうなるかを知っていたのに、誰も米国に追い詰めるのを止めろという記事を書かなかった。戦争への計算された歩みは着実に進み、我々を破壊の深淵へ導く。

NATOの東方進出への約束違反だというロシアの抗議に対し、クリントン政権は東欧諸国をNATOに加盟させたが、NATOの戦闘部隊を東欧諸国に展開しないと約束した。これがロシア連邦とNATOの間の相互関係、協力及び安全保障に関する基本文書である。この約束も破った。次いで2014年にNATO加盟を渋ったウクライナ大統領ビクトル・ヤヌコービチを追放するクーデターを米が扇動・支援した。米とNATOの侵略意思に驚いたロシアは慌ててロシア系が多く、ロシアにとって重要なクリミアを併合した。こうして死のスパイラルはもはや止まらなくなった。

戦争は敵を必要とする。敵がいなければ作る。プーチンはウクライナばかりか東欧を支配しようとしている21世紀のヒトラーとされた。かつてサダム・フセインを悪魔化したように、プーチンを悪魔化し、それをやっつける米国を救世軍とした。

この戦争がどうなるのか分からない。プーチンがマクロンに言ったようにロシアは核保有国である。もちろん米もそうである。戦争というパンドラの箱を開いたからには、核の化け物だって出てくる可能性もある。どうなるか、分からない。

---

## 訳注

<sup>1</sup> つまりゲリラ用兵器で、米国はロシアに侵攻させてウクライナ人にゲリラ戦をやらせる意図が明白である。